

柏崎市 原子力防災の基本



万が一原子力災害が起きた場合に、どのような指示が出され、どのように行動すればよいかなど、知っておいていただきたいことをまとめました。

すでに全戸配布している**防災ガイドブック（原子力災害編）**とあわせてご確認ください。



放射性物質



屋内退避

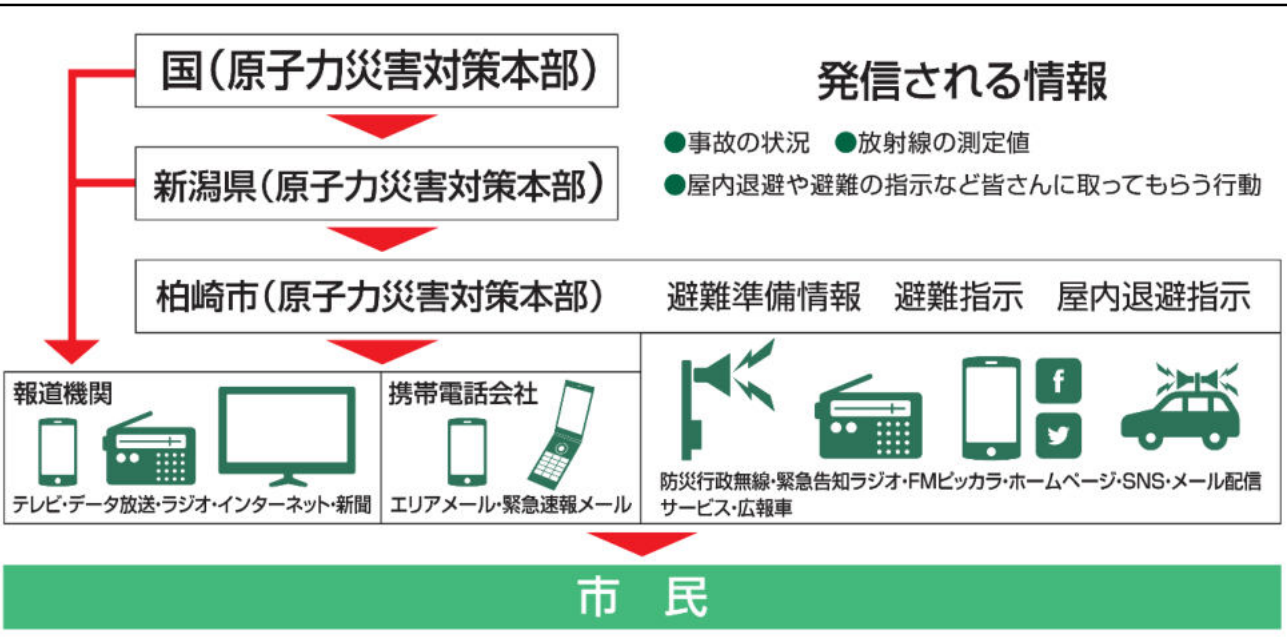


安定ヨウ素剤



自家用車避難

①正しい情報を得る・指示に従う



● 原子力災害の情報は、**防災行政無線**や**緊急速報メール・エリアメール**、**広報車**などさまざまな方法でお知らせします。

● また、誤った情報が広まることもありますので、**公共機関から出される情報や指示を待つ、あせらずに落ち着いて行動することが大切です。**

- 市からの情報に基づいて行動
- うわさやデマに注意
- 隣近所と情報の確認を
- 要配慮者が情報に気づいているか確認

◆ 新潟県は、平常時から柏崎刈羽原子力発電所周辺の空間放射線量や気象観測値を24時間監視しています。測定結果は、新潟県ホームページ【新潟県 環境放射線監視テレメータ システム】でご覧いただけます。

②自分の地区がどこかを確認

発電所からの距離により
二つの区域がある

ピーエーゼット

PAZ = 即時避難区域

Precautionary Action Zone
発電所からおおむね5kmまでの範囲

原子力災害が発生した場合、放射性物質の
放出前に避難する区域

高浜地区、荒浜地区、松波地区、南部地区、
二田地区、中通地区、西中通地区 の7地区

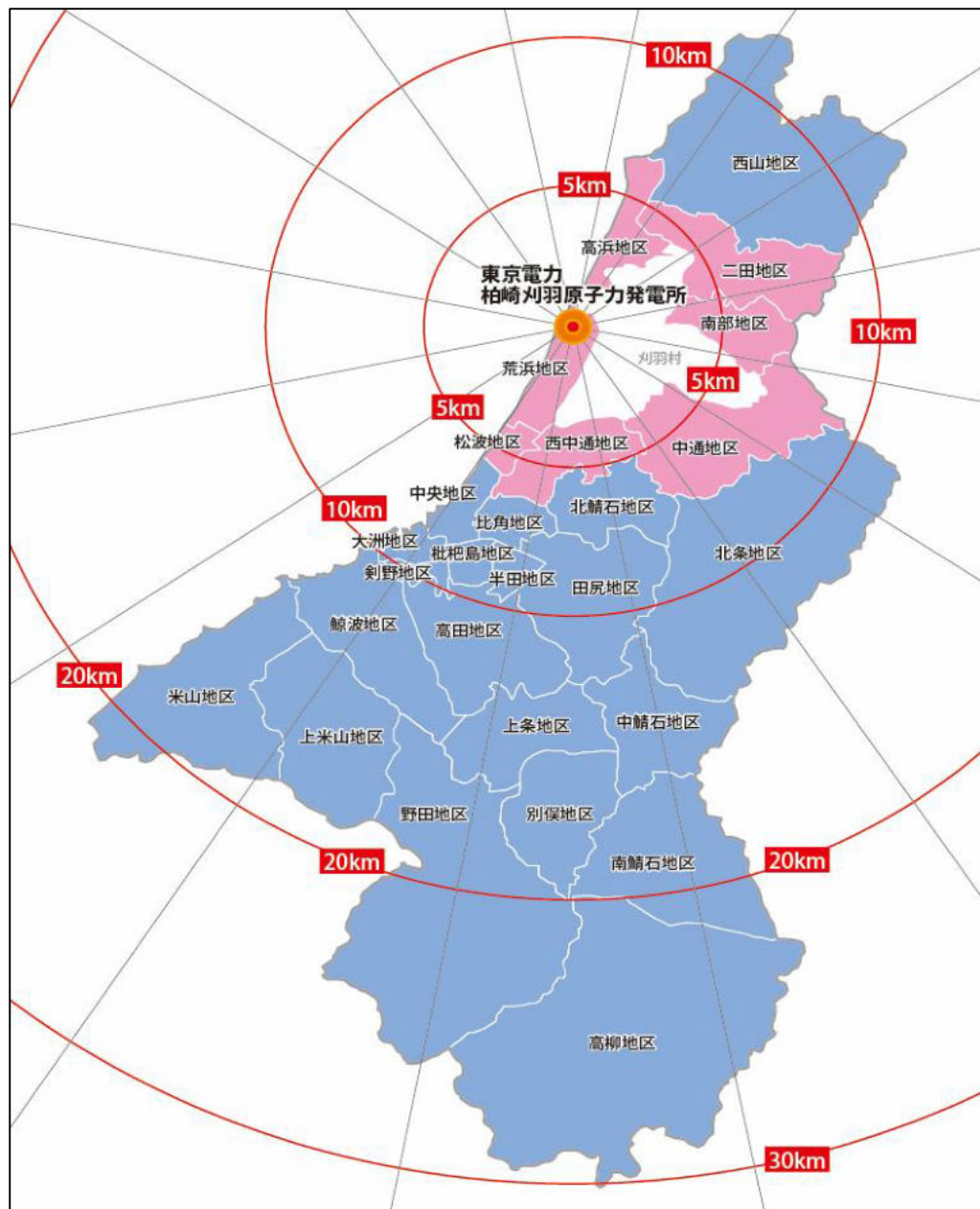
ユーピーゼット

UPZ = 避難準備区域

Urgent Protective Action Planning Zone
発電所からおおむね5km～30kmの範囲

まず**屋内退避**をし、放射性物質放出後、
指示が出た地区は避難又は一時移転する区域

PAZの7地区を除く市内全ての地区



③とるべき行動 (1/2)

市からの指示により行動実施

● 地震や発電所で事故が発生

- 震度6弱以上の地震や発電所で事故があった場合、市などからの指示により、**速やかに帰宅**しましょう。
- 保育園や学校などに通われている**お子さんの迎え**をお願いします。

● 避難のタイミング

市からの指示により行動開始

- PAZとUPZでは、とるべき行動が異なります。
- UPZは、まず**屋内退避**を行います。

● 要配慮者の避難 (PAZ)

- PAZ内の次の方は施設敷地緊急事態で避難を開始します。
- 高齢者、障がい者
- 妊婦、授乳婦、乳幼児、乳幼児とともに避難する必要のある方
- 安定ヨウ素剤を服用できないと医師が判断された方

状況	警戒事態	施設敷地緊急事態	全面緊急事態	放射性物質放出後
PAZ	帰宅 	避難準備 	避難 	避難継続
	要配慮者 配慮を する方	避難準備 	避難 	避難継続 介助者と早めの避難
	入院施設 入所者	避難準備 	避難 (施設の状況により 屋内退避の場合有)	避難継続 (施設の状況により 屋内退避継続も有)
	学校や 保育園等	保護者へ 子どもの 迎え要請	教職員 引率で 避難 ※引き渡せなかった子どもは避難先で保護者に引き渡し	避難継続 避難継続
UPZ	帰宅 	屋内退避 準備 	屋内退避 	屋内退避 または 避難 ※基準により地区ごと
	入院施設 入所者	屋内退避 準備 	屋内退避 継続 	屋内退避 または 避難 ※基準により
	学校や 保育園等	保護者へ 子どもの 迎え要請	屋内退避 保護者への 引き渡し継続	屋内退避 継続 保護者への 引き渡し中止 または 避難 ※基準により

④ 避難の流れ

市からの指示により避難実施

● 避難のポイント

原則 自家用車で避難

- 隣近所に声掛けし、できるだけ相乗りで
- 交通事故に注意、誘導の指示に従う
- 車のエアコンは内気循環に

自家用車で避難できない方は

バスで避難

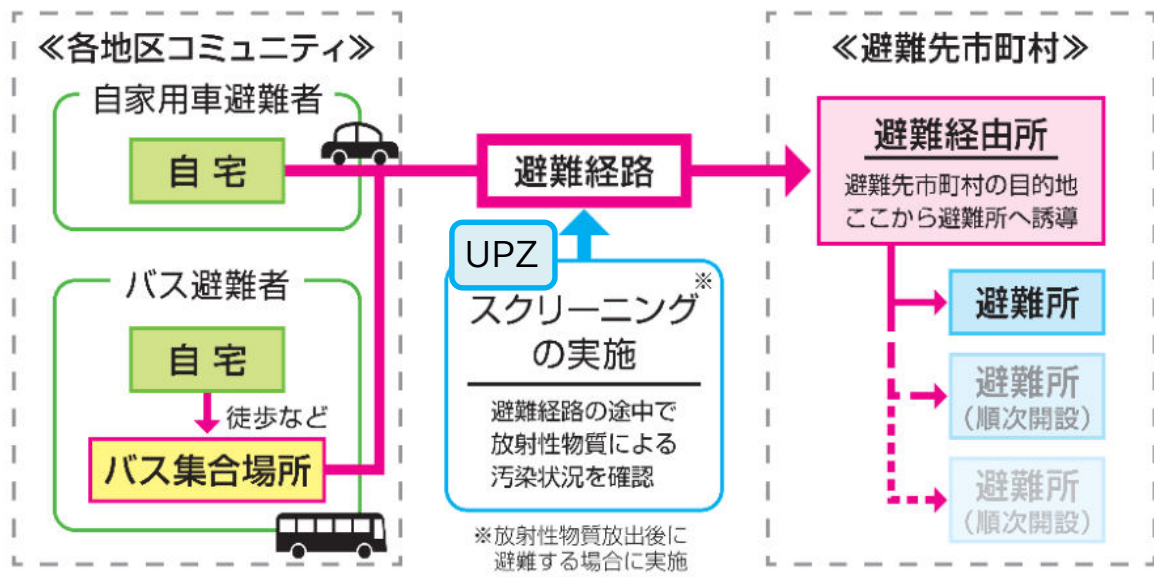
- 隣近所に声掛け
- 決められたバス避難集合場所に行く

※バス避難集合場所は、防災ガイドブックの42ページ～参照

避難に支援が必要な方は

福祉車両などで避難

- 避難に車いすやストレッチャーが必要な方
- 自宅に福祉車両などを手配します。



▶▶▶ 避難で目指すは避難経由所

スクリーニング (UPZ)

- UPZの避難・一時移転では、避難経由所の手前でスクリーニングと除染を行います。
- スクリーニングとは、身体表面や車両に放射性物質が付着しているかどうかを測定することです。
- 検査の結果、基準値を超える場合は簡易除染し、再度検査が実施されます。
- スクリーニングポイントは、30km圏周辺の避難経路上に設置されます。

⑤ 避難方面と避難経由所

まずは、避難経由所を目指しましょう

● 避難経由所

- 大きな駐車場がある目立つ施設を指定しています。
- 避難経由所では、まず、学校や保育園で避難した子どもなど、別行動だった家族と合流してください。その後、指示に従って避難所に向かいます。

対象地区	避難経由所	避難先
高浜地区、南部地区、二田地区、西山地区	パルパーク神林	村上市

村上方面へ避難

高速道（北陸道・日東道）
国道8号
国道116号など

東京電力
柏崎刈羽原子力発電所

高速道（関越道）
国道252号
国道291号など

糸魚川・妙高
上越方面へ避難

高速道（北陸道・上信越道）
国道8号など

湯沢・南魚沼方面へ避難

対象地区	避難経由所	避難先
中通地区、北条地区	湯沢カルチャーセンター 湯沢町公民館	湯沢町
北鯖石地区、田尻地区	南魚沼市民会館 道の駅南魚沼 雪あかり	南魚沼市

対象地区	避難経由所	避難先
荒浜地区、松波地区、比角地区、枇杷島地区	糸魚川市民総合体育館	糸魚川市
半田地区	道の駅マリンドリーム能生	
西中通地区（春日、橋場）	妙高杉ノ原スキー場	妙高市
西中通地区（春日、橋場を除く）	道の駅あらい	
大洲地区、鯨波地区、上米山地区	道の駅あらい	上越市
剣野地区（米山台、三島町）、米山地区	リージョンプラザ上越	
中央地区、剣野地区（米山台、三島町を除く）	ユートピアくびき希望館	
高田地区、中鯖石地区、南鯖石地区、上条地区	ユートピアくびき希望館	上越市
別俣地区、野田地区、高柳地区	大島就業改善センター	

⑥屋内退避

● 屋内退避は、放射線による被ばくの影響を低減させるために有効な手段です。

● 放射性プルーム（放射性物質が雲状になったもの）の通過時に建物の中でやり過ごし、その後も屋内に留まります。



- ✓ 放射性物質から距離をとれる
- ✓ 家屋に一定の放射線遮へい効果

屋内に入ったら
着替え、顔・手洗い、うがいをしましょう（着替えた衣類はビニール袋に密封）。

エアコン
外気を取り込まないように運転しましょう。

外気の遮断
ドアや窓を閉め、換気扇なども止めましょう。

ペット
屋内に入れましょう。

情報収集
防災行政無線やテレビ、ラジオ、携帯電話などから正しい情報を入手しましょう。

食品
フタやラップをしましょう。

屋内にいるときは、できるだけ建物の中央で過ごしましょう。非常持ち出し品の確認など、万が一に備えた準備をしましょう。

⑦原子力災害への備え

原子力災害時に用意するもの

- 長袖長ズボンの衣服
- 帽子
- マスク
- ビニール手袋
- 雨具・傘
- 安定ヨウ素剤（持っている方）

災害時を想定して日々対応を

- 車の燃料は常に半分以上入れておく
- 車で避難の場合はなるべく乗り合いで
- 日頃から家族で災害時の行動を話し合っておく

非常用持ち出し品の準備

自然災害と同様です。

- ・貴重品
- ・日常必需品
- ・情報収集品
- ・乳児用品など



いつでも持ち出せるように準備しておきましょう

⑧安定ヨウ素剤

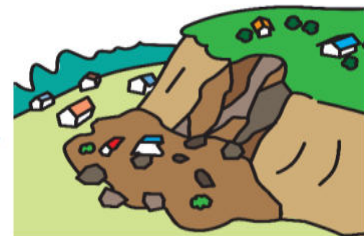
勝手な判断をせず、
指示に従い服用する

- 安定ヨウ素剤は、放射性ヨウ素による甲状腺の内部被ばくのリスクを低減する薬です。
- 事前配布の他、避難や一時移転の際に緊急配布します。
- 服用のタイミングによって効果が異なります。勝手な判断による服用は避け、**市からの指示に従い**服用しましょう。
- 事前配布に関しては、新潟県福祉保健部感染症対策・薬務課薬務係にお問い合わせください。
TEL：025-280-5237
Mail：ngt040330@pref.niigata.lg.jp



⑨複合災害時の避難行動

- 地震や津波、暴風雪、土砂災害などの自然災害との複合災害が発生したときは、**人命へのリスクが高い自然災害への対応を優先**します
- 自然災害の発生中は、P A Z・U P Zとともに屋内退避を行います。自然災害が治まり、**安全に避難ができることが確認されたときに**避難指示を出します。
- 移動が難しいときは、近くの建物に退避をして、落ち着いてから帰宅してください。



⑩もし家族と別々になったときの避難行動

状況	自分	家族	合流場所・避難行動
家族とは別な場所に避難した場合	避難先	避難先	どちらかの避難先で合流 合流後はその場で避難を継続
家族よりも先に避難している場合	避難先 (PAZにいて先に避難)	自宅 (UPZにいて屋内退避)	避難の指示または屋内退避の指示が解除されたあと、避難先もしくはは自宅で合流します
UPZで屋内退避の場所が異なる場合	自宅以外	自宅	屋内退避の指示解除後に合流

今後も防災対策の実効性向上に向けた協力をお願いします

バス避難集場所までの避難支援



日ごろの交流をつうじた要配慮者の実態把握



行政・公共機関の公助には限界がある

自主防災会など、できるだけ相互・共助を！